

府中市市民協働の推進に関する基本方針(案)へのパブリック・コメント手続の実施結果について

1 意見の提出期間

令和3年11月22日(月)から12月21日(火)まで

2 意見の件数等

意見件数	提出者数	意見の提出方法別人数				
		電子メール	ファックス	郵送	意見投函箱	窓口
3件	1人	1人	0人	0人	0人	0人

3 意見の概要及び意見に対する市の考え方

番号	意見の概要	市の考え方
1	<p>1. 市民協働の言葉の認知度について 「府中市市民協働の推進に関する基本方針(案)」(以下本案と略)2頁では、市政世論調査について、「協働について知っている」と回答した市民の割合が57.1%とされていますが、表現をかなり短くした結果のようです。回答の内訳は、「よく知っている」25.7%、「聞いたことがあるが内容までは知らなかった」31.4%で、合計57.1%の解説ですから、まだまだ市民に浸透している言葉とは言えないようです。 市政世論調査でも市民協働について知っているかと尋ねているのは平成26年からであり、当初は「知っている」が9.6%、「聞いたことがある」31.5%、合計41.1%だったことを考えると、「知っている」市民の割合は3倍近くにもなっています。 平成24年(2012年)以降、「市民協働」の言葉は、府中市庁舎内ではそれなりに使われており、市職員であればほぼ100%が知っているかとは思いますが、他市ではそれほど使われておらず、府中市特有の状況と言ってもいいかもしれません。</p>	<p>行政と市民が協働するだけでなく、市民同士も協働する「市民協働」を推進しているのが府中市の特色と捉えています。今後も市民協働が市民の皆様に浸透するよう努めてまいります。</p>
2	<p>2. 市民協働の定義について 本案では残念ながら、市民協働について言葉では表現していますが、実践例、具体例、実施効果の表示がありません。 平成24年以降、言葉としては市庁舎内では使われ、ほぼ10年になるうというのに、これでは具体的に市民協働の事業を推進しようとしたとき、どうすればいいのかわからない状況のままではないかと危惧します。 「協働」の言葉は、現在パブリックコメントが募集されている第7次総合計画(案)では207回、平成26年度(2014)からの第6次総合計画では126回、使われています。 第7次計画の方が多なのは、各施策ごとに、「■協働により推進したい取組」という項目があるためです。 市民協働の成句になったものは、第7次で18回、第6次では2回でした。 具体的にどうすれば、市民協働と言える事業が府中市内に定着するか、より活動を拡げていくにはどうするか、を考えて実践に移していただければ、と考えます。</p>	<p>基本方針は、協働関係を築く上での基本的な事項を定めることを目的に策定しました。市民協働都市を宣言してからこれまでの8年間は、協働の基盤づくりに力を入れてきましたが、今後は、ご指摘のとおり、具体的にどうすれば市民協働と言える事業が府中市内に定着するか、より活動を拡げていくにはどうするかが重要な段階に入ると考えています。どうすれば市民の皆様や市職員が市民協働に取り組みやすくなるか、実践につながるかを念頭に、方策を検討してまいります。</p>
3	<p>3. 市民協働の効果について 私たち市民の側も、行政の職員の側も、お題目だけで市民協働は定着しませんし、頭の中にも残りません。かつて、市民協働の目的を問われた市職員が「経費節減」と答えて、市民側から反論を受けていました。お互いにウィン・ウィンの事業であり、費用対効果の点で有効であれば、受け入れられると考えています。</p>	<p>どうすれば、お互いにウィン・ウィンの関係であり、費用対効果の点で有効な事業を構築できるか、他市や民間事例を参考に調査研究してまいります。</p>